

## 平成 24 年度議会報告会（第 2 回）記録書 その 1

開催日時：平成 24 年 10 月 27 日（土）14:00～16:00

場 所：さくらの家

来場者数：60 名

配布資料：議会だより(No.187)、アンケート

出席議員：全員（15 名）

### 1. 開会の言葉（塚本議長）

### 2. 報告事項

① 平成 23 年度一般会計決算認定について（横江議員）

② 平成 23 年度特別・企業会計決算認定について（伊藤議員）

### 質疑応答及び意見（報告内容・市議会だよりについて）

意見） コンピューターシステムを利用したデマンド交通について、計画は非常に良いことだが、問題は予算と実際の稼働率である。効率をよく考えて 1 人当たりいくらかかっているか検証をしてもらいたい。実際にやっても効果がなかったらやめるか、効果のある方法に変えてほしい。最近岩倉は 1 人あたりの費用が増えていると思う。岩倉は貧乏になってきているのではないか。

意見） 岩倉の市民の状態がおかしくなっていないか。変な質問を執拗にされる。議会はそういう市民を育てない。そういった市民が市役所に来た時「もうしない」となるような対処をしてほしい。岩倉にはクレーマーがいないまちにしてほしい。

問） 議会だより 6 ページの反対討論について、読んだだけでは分からないのでもう少し聞かせて欲しい。

答） 野寄町の市街化区域の土地（坪 3 万円）購入で反対した理由は、計画的な公共事業に対しての代替用地の購入としては賛成であるが、全く使用する予定がない。また 1 4 筆バラバラで、公園などに活用できるまとまった土地ではない。具体的な公共事業の用地としての計画を質問したがないとの回答であり反対した。

問） 創政会の新聞の中で財務指標数値が掲載されているが、行政経営プラン推進委員会で出している市長への報告と指標数値が違うのはなぜか？

答） 創政会新聞に記載されている数値は、9 月定例会の決算の資料の中で、当局側から提出されている主要施策成果報告書、監査委員から提出されている岩倉市決算審査意見書から数値を取り上げている。9 月定例会の中で決算の認定をされた指標である。

問) 通年議会についてメリットが多いと思うがどうお考えか？

答) 現在、定例会条例があり、それを受けて年4回となっており、これを変えなければならぬ。地方分権改革の中で地方自治法が改正され、通年議会ができる規定ができた。岩倉市議会も議会改革特別委員会の中で決め、条例改正していけばできる。ただ、通年議会の場合、休会をどのように設定するか、土日にするのかといったこと、市長など執行部側が年間拘束されるので、こういった場合に出欠になるのか、年間スケジュールの中で、予算を集中的にやる場合、決算を集中的にやる場合とあり、議会で承認を受ける項目の整理も必要。法律で出来る規定ができたので、全国的にもその方向で進んでいる。自主的に取り組んでいく地方議会のあり方を検討していきたいと個人的には思っている。また当局が対応できるかということもある。今の状況であれば通年議会もできると思うが、それらのことを整理する必要もあるので、前向きに検討していきたいと思っている。

問) 行政経営プラン推進委員会の評価結果報告を見ると、27年度の目標は数値で書いてあるが、各年度の目標の数値が書いてあるのが少ない。これについてどのように委員会が評価し、議会が承認をしていると思うが、何を根拠に承認しているのか。年度別の目標値を設定するべきではないか。

答) 経営プランについては、議会で承認することはしていない。全員協議会での報告のみである。議会改革特別委員会で取り扱う旨を申し入れ、議論ができるように調整をしている。議会としては報告を受けたという段階である。

問) 議会というのは立案、議論する場と思っていたが、やらないということか。というのはコミュニティバスの件で、共産党は走らせると長年言ってきた。オンデマンド交通が出てきてこれで良しなのか、きちんと議会も検証して具体的にこういった形で走らせるのか議論していかないと、行政の言われたことで、はいそうですかでは議会の意味がない。

答) 共産党は、平成9年頃から巡回バス、コミュニティバスの導入を求めてきた。先進地視察や市民アンケートの実施、大口町のバスの研究など行ってきた。現在、片岡市政の中では、巡回バスでは空バスとなり、効率が良くないので、予約に応じて走るオンデマンドバスを走らせたいという考えがある。コンピューターを使うことで、データ・統計も取れ、検証もできるといった考えで進んでいる。まず1歩としてそういったものを導入し、その上で市民の反応を見て新たな提案もしていかなければならないと今の段階では思っている。

答) 国の交通予算は過疎地を中心に出ていたが、420億円から170億円になった。そのうちの100億円が公共交通をどうするのかという予算に変わった。一宮市ではバス1路線で4,000万円かかっている。江南市では全体で4,000万円かかっている。オンデマンドバスを走らせるのに、その費用を市で持つのか業者で持つのか。システムは利用人数にあったレベルにしていく検討などの議論も出てくる。市長提案だからとい

って、はいそうですかと議会は受けることは考えていない。議論をしてその内容と結果をお伝えできるようにしていきたいと思っている。

問) 運営会議といったものをつくってできないか？

答) そういったものがないと国の予算も下りないので、2重3重のチェック体制がとられるはずなので、議会も恥ずかしい議論がなされないように取り組む。

問) 自治基本条例が今後議論されるが、議会の議の字も入っていないのはなぜか？市民が選んだ議会がこの条例とどのように関わっていくのか？

答) 自治基本条例については、議会改革特別委員会で議論している。議会が検討委員会に参加していないのは、議会基本条例をつくり、二元代表制の中で議会として独立していくこととしており、また審議権の関係で審議会と議会とで2回審議してしまうことになり、現在法律的に入らなければならない審議会以外は議会は入っていない。この条例は、全員が関わっている議会改革特別委員会で議論していくことにした。閉会中も審議をしている。また、市民委員より第7条の「議会の責務」について、議会としてどう考えるかを問われ、それについてこの委員会で議論し意見を出したという経過もある。

意見) 以前、I P 電話の質問をして回答をもらったが、訳が分かりません。その後 I P 電話はどうなっているのか。議会というのは、一旦承認したら、それをずっと追及していくという姿勢が必要であると思う。

問) 先ほどの土地の話でも、賛成された人、反対された人がいると思うがその意見がよくわからないので、明確にしてこのようなふれあいトーク会をやって欲しい。

答) この土地は、後継者がなく耕作放棄地となり迷惑になっていた土地である。急に亡くなった為、14筆すべてに計画が出来ない段階での補正予算であったが、農地として保全しながら、学校や保育園、市民のための農業体験の土地にしようなどといった夢があるもので、耕作放棄地で迷惑だった土地を市が買い取るといった理由により賛成した。

答) 今回の9月補正予算の下本町の都市計画道路の先行取得地については、大型道路で市民の生活は本当によくなるかという疑問があり、また今後の用地買収の見込みも明らかになっていない、総事業費も明確でない、今後も莫大な事業になるといった点から反対した。

問) 優先順位をつけて、その感覚も持って判断してほしい。市民プラザのエレベーターについても、便利になることはわかるが、古い建物にお金をかけるということに疑問もあるので、議会の中で優先順位をしっかりと議論してもらいたい。

答) エレベーター設置について、どれだけの人が必要としているかなど議会としてアンケートを取ったり、現場で生の声は聞いていない。それは反省すべき点である。I P

電話を含め、市長がやりたいということそのまま鵜呑みにしてきたというよりも過去に比べていろんな部分が表に出てきた。動画配信、報告会開催など議会と市民の接点が出来てきた。見えるところでの活動が少しずつ出来てきたと思う。受け止めていかなければならない課題は多くあるが、賛否を述べ、議員各自が説明できるよう取り組んでいきたい。少しずつではあるが、前に進んでいることはご理解ください。

### 3. 意見交換「岩倉の未来に、なにを望みますか」

#### ① 財政について

市民) 決算で余剰金が出ている。この繰越額はどのように使われるのか。債務の返済に使われるのか。次年度の予算に使われるのか。

議員) 全体的には、返済も含めた次年度の予算に組み込まれていく。

市民) 健全を財政にするために、やらなければならないことが予算化されないのが心配である。駅東も立派になった。市全体の活性化が薄れている気がする。財政を重視するあまり市全体の活気、活性化が縮まないように行政を支えて欲しい。

市民) これから子供、孫のことを考えると従来ベースのやり方では、やれないと思う。ハイパーインフレで一夜にして財産をなくすこともある。市の財政を見たときに、岩倉市で住み続けようとするには、自治体間での格差がある。国保でも名古屋市に住めば5万円は安い、議会ではどのように把握しているのか。

議員) この3年間、岩倉市は民主党政権でお金をばらまいてくれて、実は厳しくなかった。減債基金に5億円の貯金できた。事業をやっていないのでは、という批判も事実である。今後政権交代があり、また厳しい時代が来るかもしれない。実は、リーマンショック以降財政が厳しかったのは、交付金がもらえない不交付団体であり、貯金を切り崩してきた。岩倉市は減収した以上に交付税をもらった。しかしこれがいつまでも続くわけではないので国の動向を注視していかななくてはならないと考える。

議員) 国保税について、岩倉市は本当に高いと思う。数年前までは愛知県で一番高い国保税であった。他市も財政厳しい中で上がってきている状況ではあるが、まだ岩倉市は高い。これは国の財政が影響するわけで、岩倉市もこれまでも厳しい財政を切り抜けてきたと思うが、一般会計からの国保会計への繰入金を減らした経緯がある。国保税が高いという市民の声があるので、私たちも少しでも行政の方へ反映させるよう努めたい。今回、岩倉市も値上げする方向であったが、一般会計からの繰入額を上げて止めた。今後、まだ予断は許さないが、市民の暮らしについては市民の理解を得ながら生活を守るために善処していきたいと思う。

#### ② 岩倉市の認知度について

市民) 岩倉の知名度アンケートが新聞報道されていたが、こんなに認知されていないのかと感じた。議員はどのように感じているか。

委員) 岩倉市では、政策研究塾（塾長は市長）を立ち上げ、そこに若手職員を集め、今後のまちづくりをどうしていくかを研究している。その中では、人口が減少していく、

特に若い層が減っていくというところで、若い人（生産年齢人口）の定住、移住をいかに増やしていくかに重点をおいて調査研究をしている。これまでの歴代市長が子育てのしやすいまちということで一生懸命取り組んできたことで今日がある。全国的に見ても、産休明け保育や長時間保育は当たり前になってきた。その中で岩倉の持つ特性を考え、岩倉の魅力を発信できるようなまちづくりをしていく。当局の政策立案を待つのではなく、議会側も行政視察をしながら、先進都市を学び、岩倉で何ができるのかを積極的に政策提案できるように頑張っていかなければいけないと考えている。

市民) 名古屋市を始め、全国に岩倉市を知ってもらうには桜から始めないといけないと思う。もっと桜に予算をつけて、桜を大事にして育てる。岩倉市はどの方向へ行くのかを議会としてはっきりとしてもらいたい。今や目標が何にもない。

議員) 行政視察で岩倉市を説明する際、五条川の桜名所 100 選があるというのはよいが、位置の説明には、名古屋の北や一宮の横などといった表現になる。また誇りを持って説明できていない。

### ③ 自治体規模と合併について

市民) 5万人弱の人口では住民サービスが十分できないと思う。警察、病院などできない。限界がある。合併などしてある程度の規模にならないと住民サービスがよくなる。財政状況など合併には条件整備が必要と思うが、市長が先頭に立っていかなければいけない。〇〇大会でのあいさつなどは止めて、こういう大きなことに邁進して欲しい。議会としての提言を聞かせて欲しい。

議員) 議会としての提言はまだなく、議員それぞれ考え方も違い、温度差もある。自治のあり方は自治法での縛りがあり、あまり自由度が取れない。行政の大枠の部分と細かい心配りの施策との整合性をどうとるかが課題である。大きくなれば良いというものでもなく、小さくても自分たちの意思を反映させるだけ財政力がないのも事実である。大きな課題ですので逃げることなく取り組むことと思っている。

議員) 将来、合併を目指すのは良いが、近隣市町村との連携をはかることが大事で強化することが一番市政として大切である。今やるべきことは広域連携でもっと他の市町と連携していくことが大切である。

議員) ここ数年間、岩倉市、小牧市、扶桑町、大口町、豊山町の2市3町で事務方の合併研究会があり、結論としては、現在まだ合併の状況ではないというのが事務方での研究会の報告である。国の方向性は道州制である。道州制が今後展開される中で、合併の場合どの程度の規模のものを国は目指すのかがはっきりしていない。その辺りを十分注視しながら、将来そのような動きがあることを念頭に置きながら取り組みたい。

議員) 様々な市民がどうしたらよいのか、安心して住める市なのかを考えていかなければならないが、旧木曾川町では、教育分野で早くから35人学級の実施、福祉も手厚かったが、元木曾川町長の話では、一宮市と合併してこんなはずではなかった、残念だという声が印象的だった。渥美半島では、3町が合併して、赤羽根町では福祉が後退したとか、庁舎が遠くなって高齢者が大変になったとか、立派な赤羽根町役場が閉

散としてという嘆きの声が聞こえた。3.11の地震についても、合併したがために住民一人一人を把握できず、子どもたちにヨウ素剤を配れなかったと聞いている。5万人弱のまちが福祉、教育について安心したまちになると思っている。市民と十分議論を重ねながら決めていく必要がある。

#### ④ 市民活動について

市民) 市民の会の代表をしているが、今回助成金を5万円もらった。いつも行政から街の活性化や地域社会に貢献するにはどうしたらよいかということで、いろいろな提案があり、それらについて頑張って取り組んでいる。市民活動に対する助成金について議会としてどのように考えているか？

委員) 総合計画が策定される中で、市民との協働が掲げられ、市民の目線で取り組んでいる市民活動が重視されて来ているので、その方向で進むと思う。補助金は、市の補助金規定があり、補助金のあり方については議会としても検討する。未来に向けて岩倉市をより良くしていくものには補助金ではなく事業化し、市議会でも市民の目線に立って、市民活動がしやすくなればという基本的な考えは持っている。

市民) 土地購入の時の話で小中学生に農業体験をさせるのは非常に良いと思う。実際にやるのは市民の人に頼むわけで、市民団体に話をして年に何回やるのかなど話をし、やってくださいよと言うところまでやらないとやったことにならない。作ったらやるという考えでいて欲しい。第4次総合計画、協働のルールブック、自治基本条例という3つが出てきた。実際に動くのは誰かを決めずに、次々に条例だけ作ってしまうのでは、市民が飽きてしまう。第3次総合計画の時には岩倉塾ができたが、第4次では何にも出来ていない。自治基本条例ができたなら何か出来るのか。市民と一緒にやってやるというのは口だけでダメである。

委員) 市民全体の中で岩倉市をどうするか、自分たちが決めたものは自分たちも責任を持って参加しようという参加意識が必要。まちをつくる上では、人が大事で人をどう育てるか、それを少ない財政の中でどうフォローしていくのか、市民も行政も感覚を変えなければならない。行政は、国から来たものをそのまま市民に伝えるだけのスポークスマンであってはいけない。市民は、自分たちは何をするのかの参加意識を持って、予算請求できるくらいの活動をしていくと有り難い。総合的に話し合っただけでまちの総意をつくるには、市民の方々の一つ一つの言葉を大切にするという議会の姿勢でなければならないと思っている。

#### ⑤ 神明ふれあい広場について

市民) 神明ふれあい広場について、ベンチ・照明設備があり、住民は喜んでいるが、トイレがない。児童公園の時には簡易トイレがあった。きれいになった広場ではあるが、トイレの処理についてはどう考えるか。大きな予算がかかるわけではなく、早急に整備してもらいたい。

議員) 神明ふれあい広場について、早急に担当課と話し合い、返答できるよう努力する。

#### ⑥ 下水道整備について

市民) 環境緑化や住みよいまちにしようという話が出るが、本町には下水道が整備されていない。周辺は整備されていく。岩倉市の本町という重要地をどう思っているのか。せめてニュースでも流して欲しい。

議員) 下水道整備は多額の費用がかかる。名鉄線を潜らせる必要もある。市は計画を持っているので、担当課と話をして努力する。下水道については関心を持って取り組んでいるのでその点をご理解をお願いしたい。

#### ⑦ 議会に対して

市民) 検討します、努力します、しばらく待ってください、という返答でなく、具体的に答えて下さい。市当局の発表したことを鵜呑みにするばかりでなく、詰めていって欲しい。それが住民の代表である。もう少し誠意のある言葉を出してください。ふれあいトークで聞きました、終わりますというデキレースではない。アリバイづくりでしかないのなら止めたらどうですか。具体的な発言をお願いしたい。

議員) 現在、議員は15名である。議員一人一人が肝に銘じて、今出された意見に対して当局と詰めるところは詰め、できることできないこと、あるいは計画に対しては積極的に議会も関わって、それについての指摘をしていきたいと考えている。

市民) 議会は市民の立場に立って応えてもらいたい。今日の意見は非常に建設的な意見だと思う。議員を叩こうというものではない。岩倉市は頭でっかちになって、何か迫力がない、夢がない、活力がない気がする。いろんな条例を作り、市民と協働し、仲良くする。そういったことを行いながら市民の皆さんと絆を作っていくことが大事。夢を持ってこんな暮らしにしましょう、こんな風になるのですよ、どうですか皆さんとって、いいねとなれば人口も増える。日本全体が減っても岩倉市が少しでも増えれば、岩倉良いところだ、岩倉へ来て生活しようかとなってくる。市民が沢山いれば活動も多くなる。叱咤激励しながら岩倉を住みよい町にして欲しい。

#### ⑧ その他

市民) 12月2日、市の助成金をもらい「歌声喫茶 in 岩倉」を生涯学習センターで行う。料金無料にしたかったが500円となる。広報にも掲載している。市民の交流の場として行うので歌の好きな方はじめご参加をお願いします。

#### 4. 閉会の言葉 (松浦副議長)